

29年6月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 6月1日～ 29年6月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は11社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/6月	7月	8月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 22.2	△ 11.1	△ 5.6
	マツ	△ 25.0	△ 20.0	△ 20.0
	広葉樹	△ 22.7	△ 4.5	△ 13.6
消費動向	スギ・ヒノキ	0.0	△ 6.3	△ 6.3
	マツ	△ 5.6	△ 11.1	△ 11.1
	広葉樹	△ 11.1	△ 27.8	△ 22.2
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 31.3	△ 31.3	△ 31.3
	マツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	△ 30.0	△ 35.0	△ 30.0

・チップ用原木の荷動き動向は、入荷、消費、在庫とも減少で推移。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/6月	7月	8月
スギ・ヒノキ	12.5	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	5.0	0.0	0.0

・スギ・ヒノキ及び広葉樹チップ用国産原木の価格動向は、6月の強含みが7月、8月は保合いに。マツ類は3カ月連続で保合いで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・仕入動向は、エゾ・トドマツは横ばいだが、カラマツは減少状況だ（北海道）。
・6月は広葉樹原木の入荷が多かった（東北）。
・スギ・ヒノキ及びマツ類は森林再生事業からの入荷状況により変動がある。天候の悪化による変動はあるが、広葉樹は季節的要因による増加と森林再生事業による増加が見込まれる。原木の在庫状況は、スギ4.5～5.0カ月、マツ3.5カ月、広葉樹1.5～2.0カ月（東北）。
・針葉樹丸太はバイオマス発電用に流れているため、チップ用原木の確保が厳しい状況だ（関東）。
・山からの木材搬出が活発化しており、徐々に仕入が上向いている。消費は、製紙用チップは受け入れ制限がなく、生産したものは納入できる状況だ。ただし広葉樹原木については、一部の製紙会社で受け入れを大きく抑制している（関東）。
・雨の影響が予測されるが、仕入、消費、在庫とも変動はない（中国）。
・スギ・ヒノキ及びマツ類は、基本的に仕入、消費、在庫はない。広葉樹の仕入は減少、消費は生産計画に応じて消費、在庫は仕入減少により微減（九州）。

(原木価格)

・原木の購入価格は、樹種を問わず上昇気味（東北）。
・針葉樹原木は、バイオマス発電用で高い価格で買取しているため、チップ用原木も値上げの傾向だ（関東）。
・原木の購入価格に変動はない（関東）。
・スギ・ヒノキ・マツ類は基本的に購入なし。広葉樹の原木価格は横ばいで推移。

29年6月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/6月	7月	8月
生産動向	スギ・ヒノキ	0.0	△ 14.3	△ 7.1
	マツ類	△ 18.8	△ 25.0	△ 18.8
	広葉樹	△ 11.1	△ 33.3	△ 22.2
出荷動向	スギ・ヒノキ	7.1	△ 7.1	△ 7.1
	マツ類	△ 6.3	△ 12.5	△ 12.5
	広葉樹	△ 16.7	△ 33.3	△ 27.8
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	マツ類	△ 42.9	△ 42.9	△ 42.9
	広葉樹	△ 37.5	△ 37.5	△ 37.5

・木材チップの荷動きは、生産、出荷、在庫とも減少で推移。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)

品目	29/6月	7月	8月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	△ 6.3	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格は、スギ・ヒノキ類及びマツ類は保合いで推移。広葉樹は6月の弱含みが7月、8月は保合いに。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・スギチップの生産が伸びず、出荷動向は変わらない（東北）。
- ・スギ・マツチップの出荷動向は変更なし。広葉樹チップは、原木入荷量の層化により微増（東北）。
- ・製紙会社によっては、広葉樹チップの受け入れが20%減の状況だ。輸入チップが安いためか？（関東）。
- ・原木入荷が低く安定しているため、生産も横ばい状況が続いている。広葉樹チップについては、一部製紙会社が受け入れを大きく抑制しているので出荷は減少するが、在庫はほぼ残らない状況だ（関東）。
- ・紙パルプ用の広葉樹チップを生産計画の基づき生産。出荷は横ばい状態で、広葉樹チップの在庫はな（木材チップ価格）
- ・チップの出荷価格は、5月と同様（東北）。
- ・広葉樹チップについては、製紙会社によっては5月1日納入分より値下げ傾向にある（関東）。
- ・針葉樹・広葉樹とも価格変動はない（関東）。